

4	単元名	位置や方向を表す言い方
----------	------------	--------------------

1 指導目標

ものの位置や方向に係る表現を理解し、日常生活の中で適切に使えるようにする。

2 指導内容

- (1) 「上」「下」「右」「左」の位置や方向を表す語彙を覚え、使わせる。
- (2) 「前」「後ろ」の位置や方向を表す語彙を覚え、使わせる。
- (3) 「中」「外」の位置や方向を表す語彙を覚え、使わせる。

3 指導計画

時間	主な学習内容	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「上」「下」「左」「右」の方向に係る表現と意味を理解する。 ○20 ページの図で「上下」「左右」の確認をする。 ○21 ページで「上下」「左右」を繰り返し言う練習をする。口頭での表現が確実になったら、平仮名で書き、表記も確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が人差し指で「上」を指し、「うえ」の方向と意味を教える。同様に、「下」「左右」も動作を伴って教える。 ・口頭で何回も練習させることで、定着を図る。 ・ノートへの記入は、表記の確認（音と文字との連動）も兼ねる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○「前」「後ろ」の位置に係る表現と意味を理解する。 ○「中」「外」の位置に係る表現と意味を理解する。 ○「前後」「中外」の位置に係る表現と意味が理解できたら、21 ページの練習問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の「前後」に具体的な物を置いて、「前」「後ろ」の位置と意味を理解させる。 ・具体的な事物と入れ物を用意し、入れ物の「中」と、入れ物から出した「外」を理解させる。(児童・生徒の筆記用具や指導者のチョーク入れ等、身近な物で説明が容易にできる。) ・口頭で確認した後、平仮名で記入させる。

4 指導のポイント

- (1) 位置や方向に係る表現は、具体的な事物を用いて実際に体感しながら理解させる。
- (2) 「上下」「左右」は、対義語としてセットで覚えさせる。「左右」については、向かい合った学習形態では左右が逆になるため、必ず児童・生徒の視点で「左右」を教えること。利き手で「左右」を認識させ、「右（左）は、ペンを持つ手」のように意識付ける。
- (3) 「前後」「中」「外」についても、同様に体感させたり視覚で確認させたりすると理解が深まる。

5 期待される成果等

- (1) 人の位置や物の場所を正確に理解することができる。
- (2) 人の位置や物の場所を正確に伝えることができる。
- (3) 自己表現の幅を広げることができる。

6 補充・発展的な学習課題例

- (1) 実際に児童・生徒を並ばせて「前後」を確認した後に、教師の「左右」「前後」「真ん中」というかけ声に合わせ、位置を移動するゲームを行う。動きを伴うため、楽しみながら学習することができる。
- (2) 「上下」「左右」の学習時に、「真ん中（中央）」を教えると理解が深まり、児童・生徒の表現力も広まる。縦に三つの四角を板書して中央を「真ん中」、横に三つの四角を板書して中央を「真ん中」と説明する。縦でも横でも中央の位置が同じであることを理解させる。
- (3) 「いすの上」「机の下」のように、「～の○○」の形を使って、物の位置や方向を表現する練習を行う。

7 実践例

○中国語を母語とする生徒

位置に係る表現の発音は、スムーズに覚えることができたが、「左右」を混同しやすかつたため、授業で毎回「左右」の確認を行った。テキストにある「上下左右」を答える練習は、ゲーム感覚で取り組ませることで生徒の興味・関心を高めることができた。

位置や方向を教える際は、指導者と生徒が実際に体を動かして、身近な物を利用しながら学習すると分かりやすく定着も早かった。

☆ 方向を答えましょう。



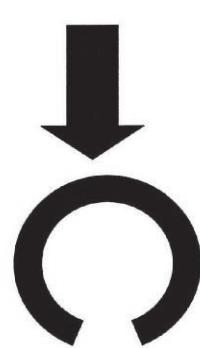
じた
(下)



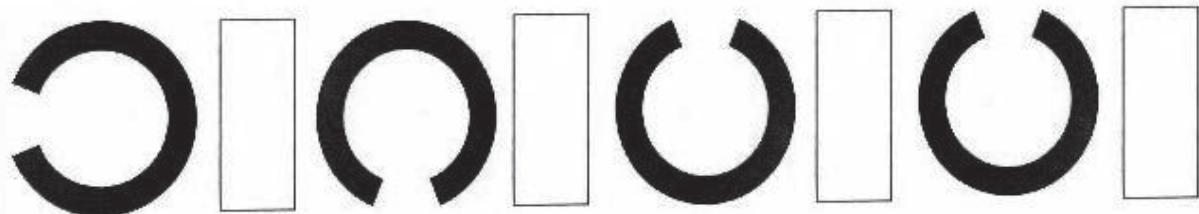
うえ
(上)



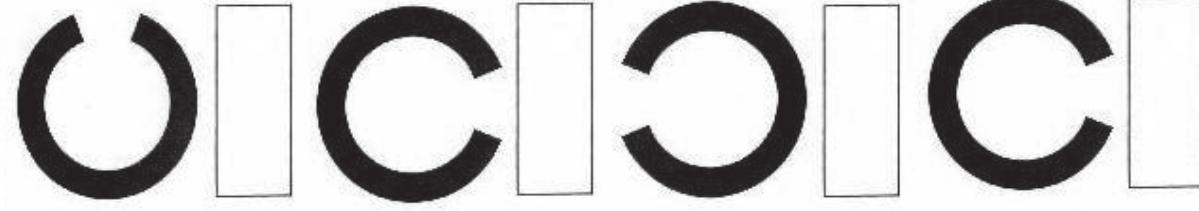
みぎ
(右)



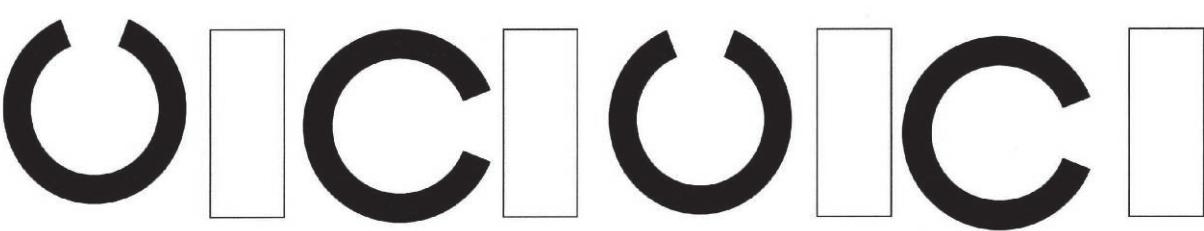
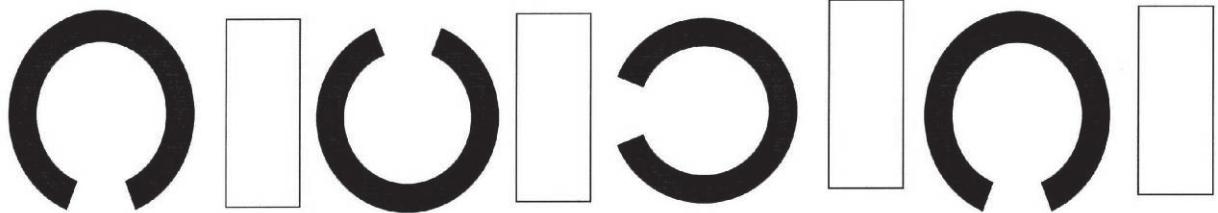
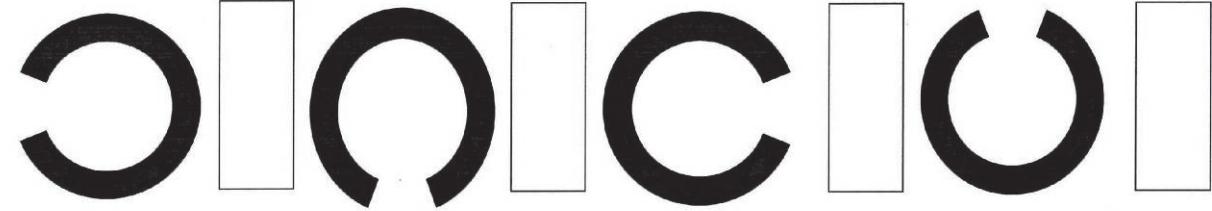
ひだり
(左)



☆ 方向を答えましょう。



☆方向を答えましょう。



			()
()	()	()	()
例(うえ)	()	()	()

		()
()	()	()
()	()	()

		()
()	()	()
()	()	()